

株式会社 ダイワメカニック

DX宣言書

2026年8月28日
株式会社 ダイワメカニック
代表取締役 細川 哲夫

□ 経営理念

技術を通して社会に貢献し、その対価をもって従業員の幸福を図る

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 独自技術を活用したロボット事業を実用化し、地域から全国へ広がる新たな主力事業へ成長させます
- ◆ 長年蓄積してきた設計ノウハウを平準化し、製造現場とも情報共有することで、属人化している技術を承継し、持続的に成長できる組織体制を構築します
- ◆ データを用いた見積りの精緻化と厳格な原価管理を実施し、品質・コスト・納期の最適化による収益性の向上と持続的な企業成長を実現します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2027年8月)

戦略 「独自技術を有するロボット事業の実用化とデータ基盤整備と業務の見える化」

- 施策
- ・ 独自技術を有するロボット事業を外部の研究機関と協力しながら実用化
 - ・ 設計担当者が過去の図面を検索しやすい環境の構築のため、過去の図面データのデジタル化(3D化)に着手
 - ・ 製造現場の業務棚卸と非効率業務の洗い出しを実施し、必要に応じて外部支援者とも連携しながら改善方針を策定
 - ・ 電気分野の設計業務の担い手確保のため、設計業務について手順の見える化と分業体制の構築に向けた検討開始

➤ フェーズ2(2027年9月 ～ 2028年8月)

戦略 「営業体制の確立とデータを活用した業務の平準化」

- 施策
- ・ 県央地域の製造業者と連携し、自社製造ロボットの実証・評価を行うことで、現場ニーズを反映した製品開発と事業展開を推進
 - ・ 図面データベースに仕様情報(寸法・能力・荷重・速度等)を付与し、条件検索できる仕組みを構築
 - ・ 在庫情報をリアルタイムに確認できる情報共有体制を整備
 - ・ 過去案件の見積・原価・製造実績データを活用し、データに基づく見積書作成を開始
 - ・ 製造現場の改善結果を踏まえ、システム導入を含めた進捗管理と工数管理の仕組みを整備

➤ フェーズ3(2028年9月 ～ 2029年8月)

戦略 「AI活用による生産性向上と持続的な企業成長の実現」

- 施策
- ・ ロボット導入実績と実証結果をもとに、近隣地域・新潟県内へ展開を拡大し、活用モデルの標準化を進めることで販路拡大の基盤を確立
 - ・ AIを活用し、過去の案件データに基づく工数予測や原価分析を実施し、厳格な原価管理体制を構築することで、利益率の高い案件の受注拡大を実現
 - ・ 在庫の適正化と収益性の向上のため、過去の実績データを活用し、見積精度の向上とデータに基づく計画的な仕入れを実施

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ ロボット技術の事業化 : 完了(～2029年8月)
- ・ 図面データベースの構築 : 完了(～2028年8月)
- ・ 案件ごとの利益率向上 : 案件ごとの利益率20%以上を確保(～2029年8月)